

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

地域名

高槻市 城南中学校区

人権課題

子ども、女性、高齢者、障害者、同和問題、外国人、
インターネットによる人権侵害、性的指向・性自認

目標・人権教育
のねらい

中学校区で地域と連携したカリキュラム・マネジメントを進め、子どもたちの主体的な
学びを充実させることで、人権尊重の社会に資する資質・能力を育成する。

各組織の動き・役割等

カリキュラムセンター会議
・人権教育研究方針決定

カリキュラムセンター事務局会議
・人権教育研究の企画立案

校区校長会
・各校の研究交流

人権教育推進会議
・人権教育研究進捗確認

各小中学校授業研究部
・各校の人権教育研究を推進

城南中学校区
カリキュラムセンター

大阪府教育庁

人権教育総合推進会議（学校長・学識者・高槻市教育委員会）

校区校長会

カリキュラムセンター事務局会議

にじわ教育研
全体会・部会

高槻市立城南中学校 校長
高槻市立西大冠小学校 校長
高槻市立若松小学校 校長

高槻市立城南中学校 人権教育担当
高槻市立西大冠小学校 人権教育担当
高槻市立若松小学校 人権教育担当

各小中学校
研究部

校種間連携の
概要

中学校区の研究及び連携の推進をカリキュラムセンター会議が担い、幼稚園・保育所の連携
担当者と小中3校の人権教育担当によって、事務局会議の開催、校区授業研究や研修の提案
調整、教職員の交流について企画・運営等を行い、共通の目標を掲げ研究に取り組む。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

地域・関係機関との連携の概要

コミュニティスクールの活動を円滑に行うため、定期的に学校運営協議会にて情報共有や今後の展開への討議を行っている。主に総合的な学習の時間の情報収集活動や探究学習の成果の発表の場の設定を、地域の方や施設と共同で企画している。

事業成果

①評価指標

知識的側面

「世の中に苦しんでいる人もいるが、その人の責任ではない場合もある」

事業開始時：78.2%→事後終了間際87.3%

分析：出会いを通し人の思いや願いにふれ、学びを深めたことから増加したと考えられる

価値的・態度的側面

「地域や社会をよくするために、何をしたらよいか考えることがある」

事業開始時：86.1%→事後終了間際89.4%

「将来、差別をなくすことができる」

事業開始時：52.2%→事後終了間際57.1%（教職員：79.7%→93.4%）

分析：探究型学習を通し、課題解決への活動の積み重ねが増加した要因と考えられる

技能的側面

「人が困っているときは、進んで助ける」

事業開始時：86.7%→事後終了間際91.5%

分析：本年度の取り組みの総合的な効果であり、カリキュラムマネジメントの成果と考えられる

②児童生徒の変容について

昨年度の人権学習の中で「誰かが頑張れば、差別はなくなる」など反差別への願いはあるが、何をしたらいいかわからず他人事になる発言があった。本年度の総合的な学習の時間の中で、「わたしにできることがあった」や「次は〇〇について取り組みたい」など地域や社会を改善することへの自分の意志を含む発言が増えた。地域へ働きかけることに對して、主体的に活動する児童生徒が増えた。

③児童生徒の変容の分析

多くの項目で、肯定的な意見が増加している。「子どもを主語にした」探究活動、地域との融合をめざしたカリキュラムマネジメントの成果と考えられる。総合的な学習の時間を軸に、子どもたち自らが地域の課題を考え、人との出会いを通し、人権概念や社会知識を学ぶ機会を設定することを進めてきた。子どもが主体的に学ぶことで、人権尊重の社会のありかたを考え、実現するための資質・能力を身につけ、行動力へとつながっていると考えられる。